

# どろんどろんと コミュニケーション



Vol.129

## 副市長の辞任とペンンの暴力

昨年一年間は私にとりまして、精神的にとても苦しい時期であったと感じております。一昨年12月22日、一人の市民が私の自宅を訪れ、副市長が多額の金銭を脅し取られていることを告げました。なぜそのようなことになったのか、副市長に何度となく問いただけしました。結果として、副市長は市にいわれないごみ処理に関して脅されたということと、自らの弱みがあったわけではないこと、公金を一切使用していないことなどから、副市長は被害者であると私は判断しました。辞任の折に副市長本人が述べているように、市のリーダーの一人として脅しに屈したことに当然、責任はあります。しかしながら大変な金銭的被害を受けたことから、私はできるだけ彼と一緒に戦っていこうと決意しました。それにしても残念なこ

とは、脅迫を受けている間、長い期間があったにもかかわらず副市長が私に一度も相談してくれなかったことです。もし相談があればその時点でこの脅迫事件は終わっていたはずです。副市長をめぐるこの事件は、ある新聞の報道をきっかけにムードが変わってきました。副市長がかわいそうであり、処分も軽いものでよいという考えから、なにかほかに弱みがあったのではないかと、市長も一緒に脅されていたのではないかなどというものです。その後のその新聞の内容を見ていますと、どうも、市長がその脅迫者に対し弱腰でなかったのか、そしてそのことが今回の事件を誘発したというようにこじつけようとしているようにも見えます。数年前、副市長を脅したとされる男性に市長室に怒鳴り込まれたこ

とがあります。そのとき私はこの男は絶対に手は出さないと考えて、恐れる様子も見せずただ黙って、怒鳴っているのを聞いていました。彼は効き目無しと思ったのか帰っていききました。その後も、私は彼から脅されたことは一度もありません。

ところで、松本サリン事件を覚えておられるかたも多いと思います。河野義行さんというかたが犯人であると疑われた事件です。河野さんは妻が意識不明の状態に陥っているほどの被害者であるのに、自分が犯人であると盛んに報道されました。その時の河野さんのつらい、やるせない気持ちは私たちの想像以上であったでしょう。これが事実です。よといくら主張しても、新聞報道で事実と違うことを一方的に報じられ、読者はこれを信じるのだからと、焦り、怒り、しかし反論もできないそのつらさは報道をされた本人にしかわかりません。河野さんほどではありませんが私も冤罪のつらさを少し体験しました。私は新聞で反論することはできませんが、天(神様)はちゃんとわかってくれていると思います。



Vol.155

### 「想う力」

「第36回全国中学生人権作文コンテスト」で、鳥羽東中学校の松本春香さんが、三重県大会で最優秀賞に、中央大会で法務省人権擁護局長賞に選ばれました。

作文の内容は、一生懸命に生きてきた97歳の素敵な、ひいおばあちゃん「こはるちゃん」への「想い」と介護を支えてくれた、たくさんの人たちの「力」への感謝の言葉と「想う力」の大切さが伝わる作文です。

私は思っている。何も伝えられず泣くだけの赤ちゃんの気持ちを推測するように、側にいる者が精一杯想うことだ。それは、意思表示されることのない障害者のかたへの気持ちにもつながると思う。そして、その想いは、友人や家族だけでなく、見知らぬ人への目に見えないあつたかい気持ちに必ず通じていくはずだ。」(作文抜粋)

今回、全国7,338校、972,553人もの中学生在が、「子供に関する問題」「障がいのある人に関する問題」「戦争・平和」「差別問題」などについて、今、感じている「想う力」を作文に綴っています。

この作文を通して「想う力」を「命の尊さ」を今一度、考えてみてはいかがだろうか。

※松本春香さんの作文(全文)は、市ホームページでご覧いただけます。



木田市長に受賞を報告